

# 地域と共に取り組んだ見守りのしくみについて

## ～ほのぼのの沖野みまもりマップづくり～

宮城県仙台市若林区  
沖野地域包括支援センター  
生活支援コーディネーター及川洋子



# 圏域について

## 仙台市

- ・人口 1,506,602人 高齢者人口:245,978人(高齢化率23.3%)
- ・日常生活圏域数 63 包括支援センター数 52

## 沖野特徴

◎仙台市の東南部に位置し5つの行政区の若林区の中にある。

- ・人口:13,970人 高齢者人口:3,752人(高齢化率 26.86%)
- ・沖野包括支援センター 平成24年4月 沖野中学校区に新たに開設
- ・中学校1、小学校2、保育所3 市民センター1、老人福祉センター1

- ・古くはお城があった(沖野城)。以前は農村地帯、現在は圏域の東側に田園が広がり西に住宅地がある。アパートなど借家も多く、町内会によっては全世帯の4割を占める地区もある
- ・平坦で徒歩や自転車で行ける範囲に医療機関、スーパー、コンビニ、郵便局、銀行がある。
- ・独居、高齢者世帯が増加、介護者が不在など緊急対応や8050問題も課題。

☆東日本大震災では東部道路が防波堤になり被害を免れた。

# 仙台市の高齢者施策

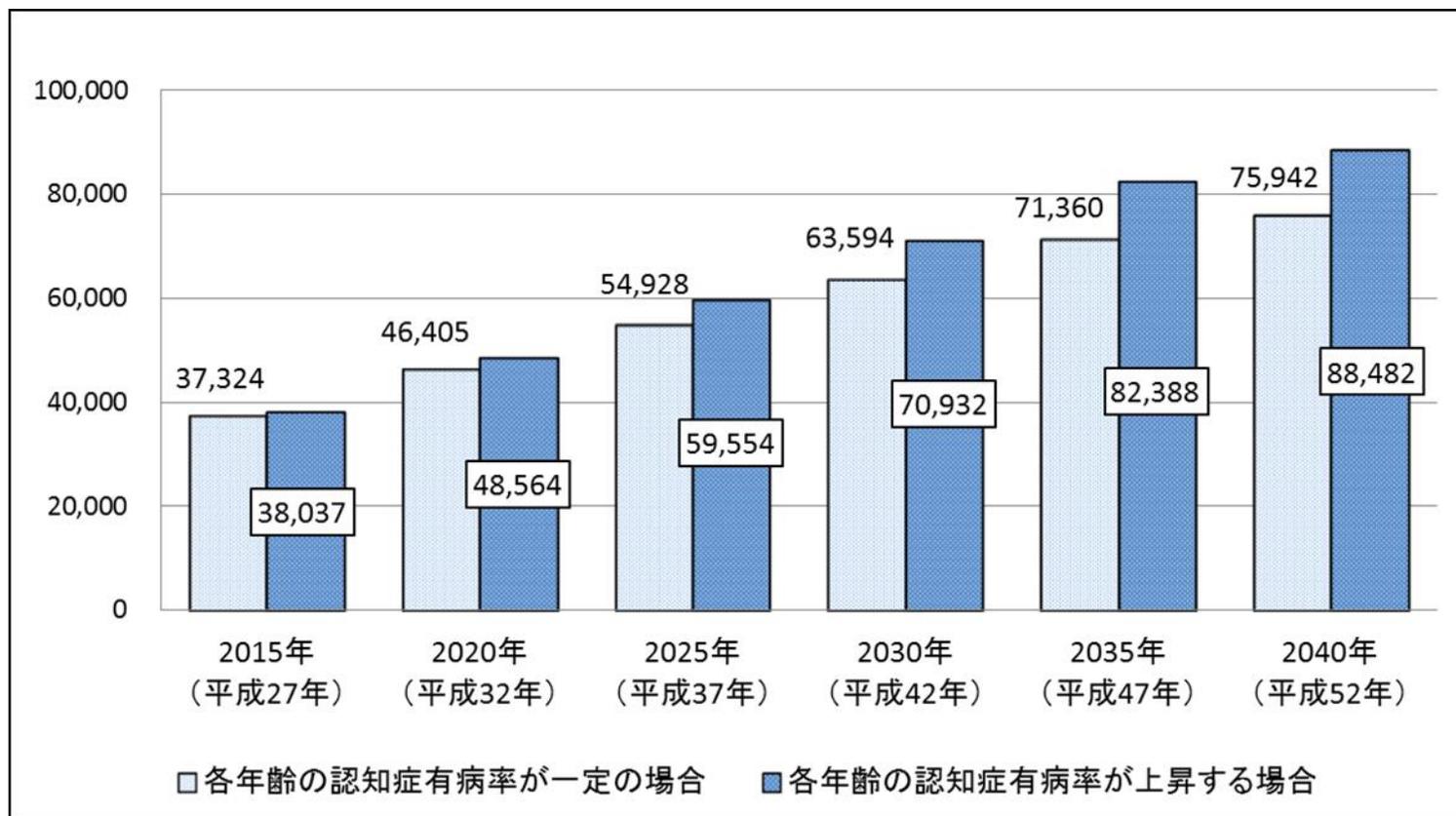
仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成30年度～令和2年度）

## 基本目標

高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指す

- ①健康と元気でいられる環境づくり
- ②知識・経験や能力を生かして活躍し続けられる機会の充実
- ③必要な支援を得ながら自立した生活を続けられる体制づくり
- ④地域の資源やつながり、専門職の連携を生かした地域の支え合いへの支援
- ⑤認知症の人が安心して暮らせるまちづくり
- ⑥介護サービス基盤の整備
- ⑦高度化する介護ニーズへ対応できる人材の確保

# 仙台市の認知症高齢者推計値

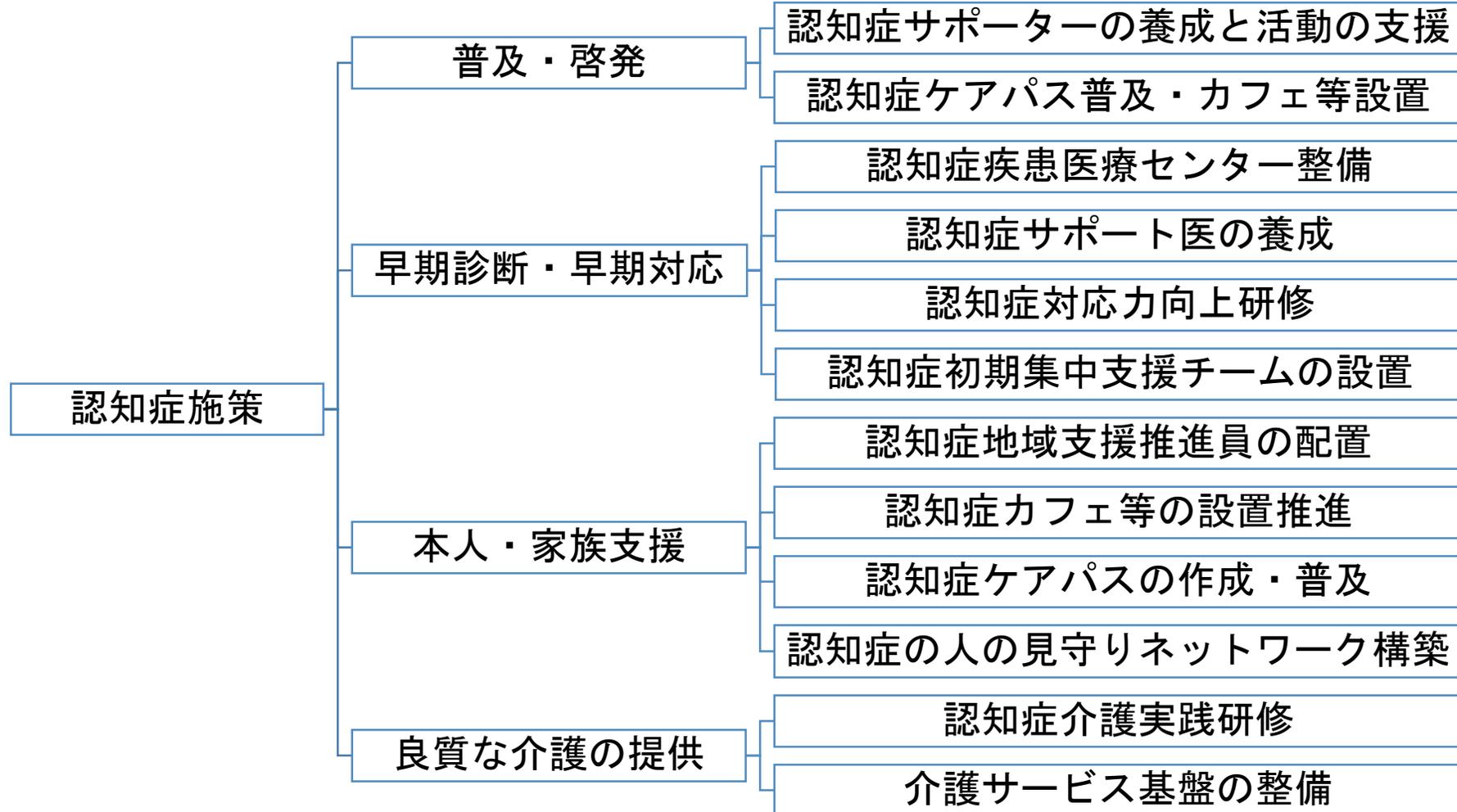


\* 65歳以上人口（国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（H25.3）」）を基に、「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学 二宮教授）」より推計

仙台市の認知症高齢者は令和7年は約5万5千人  
新たな推計による認知症有病率20%とした場合は約6万人

# 仙台市の認知症施策

新オレンジプランに示される施策と目標に基づき認知症対策を推進しています



# 活動内容の位置づけ

## ・仙台市の高齢者施策

「仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成30年度～令和2年度）」

⑤認知症の人が安心して暮らせるまちづくり

## ・仙台市の認知症施策

「新オレンジプランに示される施策と目標に基づき認知症対策を推進」

本人・家族支援



認知症の人の見守りネットワーク構築

# 認知症地域支援推進員の役割・取り組み

## ◆生活支援コーディネーター

- 生活支援体制整備事業の推進
- 地域包括ケアシステムの構築の推進

## ◆認知症地域支援推進員・・・認知症施策の推進

- 認知症高齢者の地域での生活を支える・・・基本は新オレンジプラン
  - 認知所カフェの設置
  - 認知症ケアパスの作成・普及啓発
  - 認知症の人の見守りネットワーク構築
- 認知症初期集中支援事業
  - 事例検討、チームアプローチ、連携支援
    - 早期発見、早期対応、初期のアセスメントの重要性、専門職のアプローチ

# 推進員配置当初の活動イメージ

## 平成28年機能強化職員へ

\* 意気込んでコーディネーターに！！  
→しかし??

\* この時期の地域の印象 → まとまりがある地域

- ♡ 町内会長が協力的。
- ♡ 民生委員が熱心で連携しやすい。
- ♡ 地域ごとに高齢独居などの見守り体制がある(地区により大小や温度はあるも)。
- ♡ 認知症の相談は増えているが本人、家族はまだ地域には隠したい、近隣には知られたくない。→やや重症化している状態での相談、入所施設探しの依頼。

# ほのぼの沖野みまもりマップづくり

～高齢になっても認知症になっても安心して暮らし続けられる沖野を目指して～

ほのぼの沖野みまもりマップとは

- ◇急速に進みつつある高齢化に備えて、お互いに支え合うための**見守り**の仕組みを地図にしたもの→圏域に5, 500部全戸配布。
- ・見守り活動に協力する個人を‘ほのぼの沖野みまもりたい員’  
その他を‘ほのぼのみまもり登録所’とし地図上に番号で表記。
- ・誰が見守りを担っているかがわかるように登録場所には名札(ステッカー)を掲示。
- ・名簿は別途作成、登録者同士で持ち合っている。

○個人登録者 102名

○事業所数 94先



ほのぼの沖野みまもり  
マップ作成委員会を立  
ちあげた

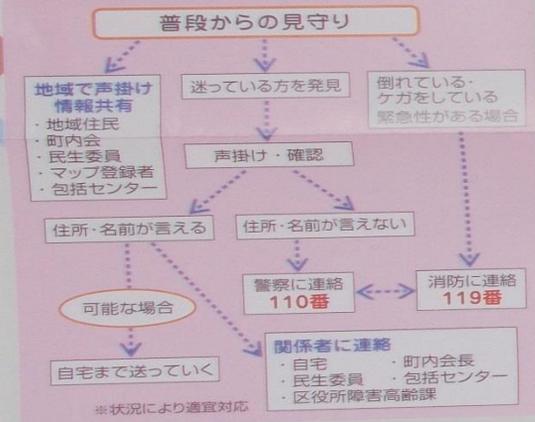


# ほのぼのの沖野みまもりマップ

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、地域が連携してサポートしていきます。

- 陸上自衛隊 霞目飛行場
- 公共機関**
- 仙台南警察署六郷交番 ☎289-2054
  - 仙台市若林消防署六郷分署 ☎289-4365
  - 若林区役所障害高齢課 ☎282-1111
  - 沖野地域包括支援センター ☎294-0380

## \* みまもりマップ対応フローチャート \*



A	特別養護老人ホーム秋の風	(代表) ☎289-8555
B	憩いの園	(代表) ☎286-7976
C	すだちの里	(代表) ☎781-2382
D	沖野デイサービス・沖野居宅	(代表) ☎282-0539
E	穂の郷	☎253-6266
F	デイサービスオリカ	☎294-1060
G	nagomi沖野店	☎355-4981
H	うぐいすケアセンター	☎354-1062
I	かいごや	☎282-1082
J	訪問看護ファーストケア仙台	☎355-6358
K	沖野内科医院通所リハビリテーション	☎253-6310
L	包括ケアステーションソエル	☎369-3726

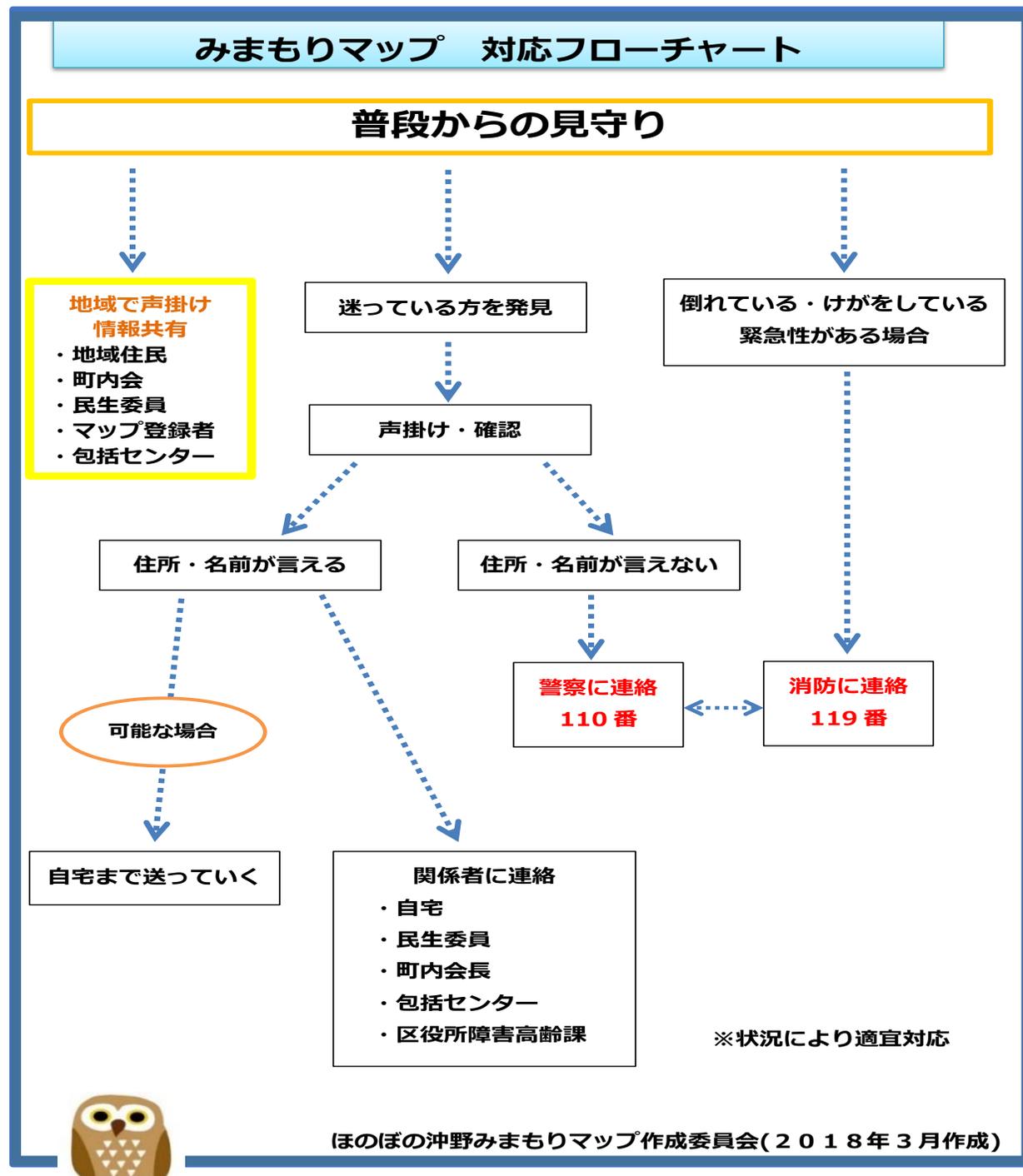
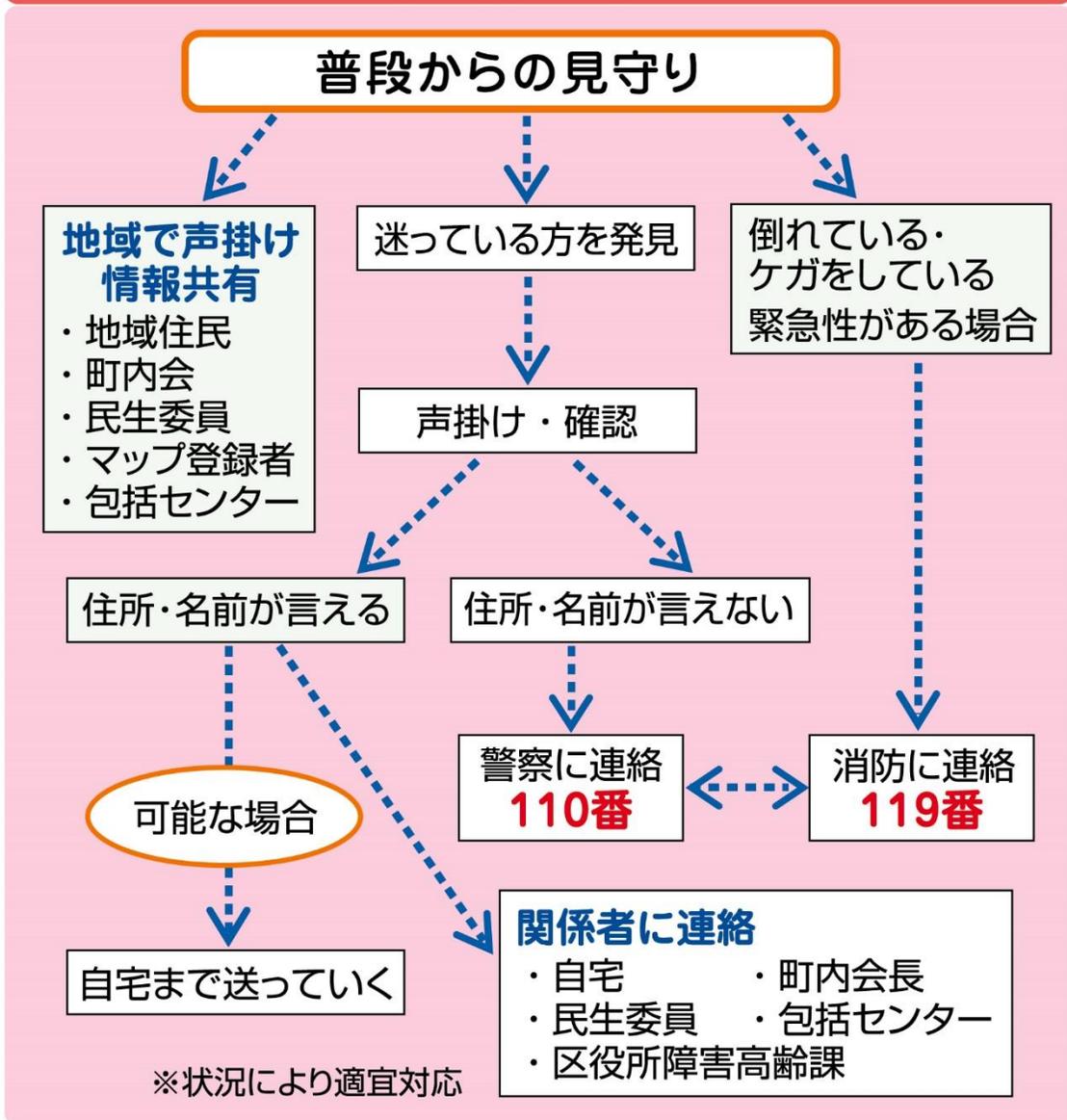
- 医療・福祉施設
  - 公共施設
  - 商店・企業 (みまもり登録所)
  - ほっこりカフェ
  - バス停
  - 公衆電話
  - AED設置場所
- 丸数字は町内会のみまもりマップ登録者です。



裏面に認知証ケアバスガイドがあります。

# ● みまもりフローチャート

## \* みまもりマップ対応フローチャート \*



# 活動の連携先

## 連携先

◇圏域 10町内会（会長、会長代行）

- ・ やよい会、沢田、中河原、中柵、三ツ橋、横堀東、横堀西
- ・ 館、上飯田第一、沖野団地自治会、

◇民生委員、児童委員 13名

◇老人クラブ ◇サロン代表者 ◇社会福祉協議会

◇沖野商店会 ◇病院・医院 5

◇薬局 5件 ◇介護保険事業所 17先

◇六郷交番 ◇若林消防署六郷分署 ◇沖野老人福祉センター

\* これまでのケア会議のメンバーに商店会が加入

→作成委員会メンバー13名選出

# 活動のながれ

## 決定事項・内容

- ・ケア会議を開催・・・マップ作成の了承→・ネーミング決定
- ・委員会の立ち上げ・・・メンバー決定（活動内容の検討）
- ・地域への発信・・・地域の皆様へ文書配布
- ・見守り登録者募集・・・登録依頼書作成・配布・回収
- ・登録者集計・確定
- ・マップの具体化・・・掲載内容、サイズ、髪質
- ・フローチャート作成
- ・ステッカー作成
- ・マップ配布・・・町内会の協力
- ・説明会の開催

# 活動を進めていく上での工夫

- ・最初に担当圏域ケア会議を開催し、目的をマップ、ケアパスつくりと位置づけた。
- ・ケア会議はこれまでのメンバー『町内会長、民生委員、各サロン、老人クラブの代表者、圏域の全介護保険事業所、開業医、薬局、警察、消防、若林区』に加え、新たに**商店会**、に入ってもらい、開催時間を可能な限り加が可能な時間帯に設定した。
- 委員会のメンバーをケア会議の席上で選出したことで地域から認められた。
- マップのタイトル名、シンボルマークも事前募集し投票で決定した。
- 見守り募集用紙を全戸配布。取りまとめ役を各町内は会長、商店会は責任者としたことで登録数の意識強化を図り、包括だよりで随時進捗状況を報告した。
- メンバーに写植の専門家がいたことで助けられた。







- A 登録名簿の番号を町内毎の番号に
- E AEDの記載 / マップとケアパス両面にするのほどなの
- B 名札を確定したい。○ ← 裏面はケアパスなどの記載を
- G 南警察署六郷交番と記載してほしい。
- C マップのタイトルはこのままでよい。  
バス停の記載、介護保険事業所の電話番号
- D みまもりマップは原案通り
- I マップの裏面がケマパスになる  
ニッパで配布 折り方は個々にまかせた方が  
公園があった方が
- H サロコを載せる必要があるか?  
ほりかておたらはホームコースで行う。





# 反省・気づき

- ・細かい点まで全員で検討しようとしたことが裏目に→計画も頓挫しかけた。  
→時間を空けて戸別訪問し再開にこぎつけた。・「一人一人は協力的しかし・」
- ・決定事項が翻ったり、議題があともどりした。  
→会議を録音し議事録を作成、交付。前回の振り返りと進捗の確認を励行した。  
(専用ファイルを作成、各自に配布)
- 会議参加を全てとせずフォローの訪問を実施。
- フローチャートの作成過程で紛糾→警察、消防署の助言で解決した。
- 印刷費だけで予算が消化、ステッカー分の資金が足りず。  
→社会福祉法人の地域貢献で協力頂いた。
- 会議室の利便性、駐車場の確保、携帯メールの活用。

# 活動の効果



- みまもり活動で無事に保護した事例 →延べ15件。  
→みまもり、支え合い、認知症への関心が高まりつつある。
- ケアパスの活用で、初期での気づきと相談支援への繋がり。
- 地域ごとのみまもりの意識は広がり、福祉委員活動、サロン活動へと波及。
- コンビニ、スーパー、金融機関が地域の一員としての自覚が強くなり連携が気さくになった。
- ステッカーは、フクロウが可愛い、これってなに？と子供たちの中で話題に。
- ケアパス作りに関わった介護保険事業所2カ所が認知症カフェを立上げた。



# 今後の活動・取り組み

- ほんのぼの沖野見守りマップ&ケアパスだより」の発行。
  - ☆ 第2号まで発行済み
- 認知症の研修会の開催・・・
  - ☆ 認知症の理解と支え合い→「認知症サポーター養成講座」
  - ☆ 認知症は怖くない: 認知症情動療法のすすめ→「サポータースキルアップ講座」
- 町内会、関係機関ごとにみまもり登録者の集まりを開催、連携の強化  
(連絡網の作成) 支え合いの体制づくりに取り組む。
- ステッカー掲示のアルバム作成
- みまもり登録者を増やす。
- 「見守りたい人」の登録と両者のマッチング。
- 行方不明者を探す模擬訓練の実施。

# この活動を通して伝えたいこと

- 地域には力があり、人材もいる。繋がり次第で大きく動き出す。
- 地域の課題は、住民自身が気づき、自らが言葉で発信し関係機関と繋がることで解決に向かう。
- 推進員（生活支援コーディネーター）は地域に足を運び、地域の声をひろい「既に地域に根付いていて、住民が資源として気づかずにいる人、風習、習慣、気遣いなど（宝のようなもの）」への気づきと、実際のつながりを支援すること。



ご清聴ありがとうございました！！



沖野地域包括支援センター



沖野地域包括支援センター